広島
039

令和七年度
広島大学光り輝き入試
総合型選抜（Ⅱ型）
文学部　人文学科

小論文問題

分野	日本史学

令和六年十月十二日（土）
自　十時三〇分
至　十二時〇〇分

答案作成上の注意

一. この問題冊子は、監督者から指示があるまで開けてはいけません。
二. この問題冊子は、表紙を含めて二枚、解答用紙は二枚、下書き用紙は一枚です。
　解答開始の指示後、直ちに枚数を確認してください。
三. 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
四. 解答は、すべての解答用紙の所定の場所に記入してください。
五. 解答終了後は、解答用紙を番号順に並べてください。
六. 配付した解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
七. 配付した問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ってください。
八. 問題解答時間中は、監督者の指示に従ってください。

総合型選抜（Ⅱ型）　小論文問題

分野	日本史学

問一

次の文章は、著者が課題図書『歴史とは何か』（E・H・カー著、清水幾太郎訳、岩波書店、一九六二年）の中で自分の考えをもっとも主張した部分である。そこで文章中の言葉を用いながら、著者が「歴史」に対してどのような考えを抱いているのか、「過去」と「現在」、そして「未来」の関係に触れながら述べよ。

したがって、解釈の方も、事実の選択や整理の方も、両者の相互作用を通じて微妙な半ば無意識的な変化を蒙（こうむ）るようになります。そして、歴史家は現在の一部であり、事実は過去に属しているのですから、この相互作用はまた現在と過去との相互関係を含んでおります。歴史家と歴史上の事実とはお互いに必要なものであります。事実を持たぬ歴史家は根もありませんし、実も結びません。歴史家のいない事実は、生命もなく、意味もありません。そこで、「歴史とは何か」に対する私の最初のお答を申し上げることにいたしましょう。歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話なのであります。（課題図書、四〇頁、一部改変）

問二

次の文章は、著者が課題図書の中で唯一「日本」に関して述べている部分である。そこで「日英同盟」締結の背景とその後の展開について、東アジアや欧米の情勢に触れながら述べよ。

ちょっと、二十世紀のアジアに起ったことを見ることにしましょう。話は、一九〇二年の日英同盟から、つまり、アジアの一国がヨーロッパ列強という魔法の輪に初めて仲間入りした時から始まります。日本がロシアに挑戦し、これを打ち破って自分の昇進を宣言し、これによって、二十世紀の大革命を燃え上らせる最初の火花を点じたのは、恐らく、偶然の一致でありましょう。フランスの一七八九年の革命および一八四八年の革命を模倣するものはヨーロッパ中にいたものです。一九〇五年の第一次ロシア革命は、ヨーロッパでは反響を喚び起しませんでしたけれども、アジアでは模倣するものが出て、これに続く数年の間、ペルシア、トルコ、中国に革命が起りました。（課題図書、二二一頁）